平成20年7月5日発行（年6回5日発行）第41巻2号通巻388号　昭和51年8月18日第三種郵便物認可

http://www.display.or.jp

ニッポンディスプレイ

ND

2008
JULY
AUGUST
388

Nippon Display

ニッポンディスプレイ７・８月号
平成20年７月５日発行（年６回５日発行）第41巻２号通巻388号　昭和51年８月18日第三種郵便物認可

ディスプレイ連合会・出版物ご案内

ディスプレイのデザインとマネジメント
ディスプレイの世界

ディスプレイ概論／ディスプレイの企画とデザイン／ディスプレイのマネジメント／
ディスプレイの制作・施工／役立つ資料

■菊5判／220ページ　■定価 3,885円（税込）

ディスプレイ業の
PLガイドブック

製造物責任法（PL法）について／製造物の欠陥をなくすために／警告表示について／
クレーム対応について／資料

■A4判／22ページ　■定価 1,000円（税込）

改訂　－2006－
企画・設計等の業務及び報酬基準

業務の内容／業務の報酬／報酬以外の特別経費／報酬等の計算方法／著作権等

■A4判／16ページ　■定価 1,000円（税込）

改訂　－1989－
統一請負契約書

■A3判／1冊50枚綴　■定価 600円（税込）

新・標準見積様式

見積価格の構成／内訳書の記載基準／内訳書の作成要領／見積書の記載例／
工種別細目内訳書記載例／業務分野別内訳書記載例／略語表

■A4判／156ページ　■定価 3,780円（税込）

●お申込は、下記申込書を連合会事務局までFAXにてお送りください。

購入申込書

（社）日本ディスプレイ業団体連合会　行　（FAX：03-3274-4659）

ディスプレイの世界	冊	PLガイドブック	冊
企画・設計等の業務及び報酬基準	冊	統一請負契約書	冊
		新・標準見積様式	冊

＜出版物送付先＞

住　所：　〒

会社名：　　担当者名：

電話番号：　　FAX番号：

発行社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会　編集・ND広報委員会　定価350円
〒104-0031 東京都中央区京橋3-3-8 新京橋ビル　TEL03(3274)4657　FAX03(3274)4659
（会員・構成員の方のND購読料は会費に含まれています）

第40回通常総会開催される

平成20年度事業計画等を承認

平成20年5月22日に、第40回通常総会を東京の「ホテル インターコンチネンタル東京ベイ」で開催し、平成19年度の事業報告・収支決算、平成20年度の事業計画・収支予算等を原案通り承認しました。

平成20年度　事業計画

基本方針

昨年度は各事業の積極運営を行ない、徐々にその成果を上げることが出来ました。

本年度は節目の40周年を迎えるにあたり、さらに各事業の質的向上に努めることはもとより、地域活性化、会員・構成員増強、公益法人制度改革による申請作業、青年交流会の充実、官庁・関連団体との交流など、主要なテーマについて積極的に対応してまいります。

平成20年度主要事業を次のとおりとします。

1.知名度の向上
2.会員・構成員の増強
3.地域活性化への援助

事業概要

〈主要事業〉

1.公益法人制度改革への対応

公益法人制度改革関連三法（公益法人認定法・一般法人法・整備法）が12月に全面施行されるのに伴い、本会の目的を達成するために最もふさわしい法人のあり方、事業のあり方をじっくり検討して、この抜本改革に適切に対応してまいります。

2.知名度の向上

ホームページ「NDFウェブ・サイト」はその機能・内容をより活用しやすくするためにトップページのリニューアルを行い、ディスプレイ業界の認知度をさらに高めるとともに業界情報の量的拡充を図り、業界発展に寄与することができるよう取り組んでまいります。

また国外のディスプレイ業界の実情及び業界団体、同業社との相互交流、情報交換を図るため、海外研修の実施を検討いたします。国内ではディスプレイ業界と関連のあるさまざまな業界団体に対し支援・協力を行うとともに連携を深め、知名度の向上強化を一段と進めてまいります。

3.会員・構成員の増強

本年度は創立40周年を迎える節目の年度にあたり、会員・構成員の相互交流・情報交換等の連携の強化に加えて、本会と構成員との連帯感を高めるべく新たな構成員章を制作いたします。

また本会と各地区、各会員との協力のもと構成員数増加及び会員未組織地区の加入促進に向け、会員増強の視点と構成員増強の視点を、適確に判断しながら推進してまいります。

4.地域活性化への援助

地域活性化事業は、従来から活発に活動している東日本、中日本、西日本の各地区委員会の協力のもと、多角的な視点から単年度ごとにエリアを絞り、重点的にその地域の活性化となる多様性のある事業を支援してまいります。この活動を通して業界と行政、地方と中央の連携強化、さらに「地方の時代」の先駆けとしての地域活性化を強力に打ち出し推進してまいります。

〈その他事業〉

1.継続事業の実施と見直し

（1）ディスプレイ技術の向上とディスプレイ産業の振興に寄与する「ディスプレイ産業賞」顕彰事業の実施
（2）全国会員・構成員の交流強化のための「創立40周年記念全国大会（第40回/東京）」の実施
（3）構成員及び未加入企業を含めその協力企業にディスプレイ業の技術及び知識の普及に繋がる教育研修事業の実施
（4）企業利益を守る「賠償責任保険制度」などの継続実施

2.全国青年交流会の運営のバックアップ

ディスプレイ業界の次代を担う人材の育成・交流を図るため、全国青年交流会を本年度も開催し、さらに継続・発展を促進すべくバックアップしてまいります。

3.その他、上記に関する事項

ディスプレイ憲章

ディスプレイは
主題を空間に演出する伝達技術である
われわれは
企業間の相互理解に立ち
業界全体の繁栄をはかると共に
創造に徹し　技術を磨き
ディスプレイを通じて社会に貢献する

会員団体（34会員）

北海道ディスプレイ協会
青森県ディスプレイ協会
岩手ディスプレイ協会
宮城県ディスプレイ協会
秋田県ディスプレイ協会
山形県ディスプレイ協会
福島県ディスプレイ協会
茨城ディスプレイ協同組合
栃木県ディスプレイ協同組合
群馬県ディスプレイ業協同組合
千葉県ディスプレイ業協同組合
東京ディスプレイ協同組合
神奈川横浜ディスプレイ協同組合
新潟県ディスプレイ協同組合
長野県ディスプレイ協会
富山県ディスプレイ業協同組合
石川県ディスプレイ業協同組合
岐阜県ディスプレイ産業協同組合
静岡ディスプレイ協同組合
愛知名古屋ディスプレイ協同組合
三重県イベントディスプレイ協同組合
京都ディスプレイ装飾協会
大阪ディスプレイ協同組合
兵庫ディスプレイ協同組合
奈良イベント事業協同組合
岡山県ディスプレイ協同組合
広島ディスプレイ協会
山口県ディスプレイ協会
徳島県ディスプレイ協会
愛媛ディスプレイ協会
福岡ディスプレイ協同組合
長崎県ディスプレイ協同組合
熊本ディスプレイ協会
鹿児島ディスプレイ協会

もくじ
CONTENTS

第40回通常総会開催される 1
第40回全国大会 in 東京 2
日デ連40周年記念シンポジウム・コーディネーター
平野暁臣氏に聞く 6
暑中見舞　名刺広告 8
株式会社 博展（東デ協）、大証（ヘラクレス）に上場！ 12
平成20年度 ディスプレイ産業賞地区審査会 報告 13
わが組合・協会 お国じまん 14
新規加入構成員の紹介 16
連合会のおもなうごき 19
編集サロン 20

表紙の説明

キンギョ
キンギョは涼味を誘います。誰しも子どものころ、縁日で「金魚すくい」に興じた思い出があるでしょう。江戸時代にメダカとともに愛玩用に広まりました。豪商のなかには、天井にガラスの水槽を据え付けてキンギョを泳がせ、暑気払いをした者もいたそうです。もともと自然界に生息していた魚ではなく人工的につくられた観賞魚。フナの突然変異であるヒブナを飼育・交配してつくり出されました。英名はGoldfishです。

ニッポン ディスプレイ
ND
Nippon Display
2008
JULY
AUGUST
388

社団法人日本ディスプレイ業団体連合会

第40回全国大会 in 東京

本全国大会は日デ連創立40周年を記念する大会。式典と交流会は5月22日、東京ベイエリア・竹芝のホテルと東京湾クルージングの大型客船にて行われた。翌23日には、研修視察、ゴルフ大会も行われた。今回の大会は、ディスプレイ業の将来の可能性を探るシンポジウムがメイン企画となり、400名を超す参加者を得て、40周年のエポック・メーキングとなる意義深いものとなった。

大会式典

式典は、「ホテルインターコンチネンタル東京ベイ」にて行われた。まず、本大会の開催を担当した東京ディスプレイ協同組合より、清水卓治理事長が「開会のことば」を述べた。

「昭和43（1968）年創立の本連合会は、大阪万博、つくば博、日韓共催サッカーワールドカップ、愛・地球博など、大プロジェクトにおいて重要な役割を果たしながら、ディスプレイの品質向上を担ってきた。現在、将来における発展を確信しつつも、明日への不安もまた抱いていることは事実である。本大会を業界全体の新しい方向性を提案する場としたい。ディスプレイ業に誇りを持ち、これから何をなすべきかを皆さまとともに考えていきたい」

続いて、倉田信一副会長が高らかに「大会宣言」を行った。

参加者が多く、第2会場が設けられて、大会の模様が映像で生中継された。会場をびっしりと埋め尽くした参加者を前に、乃村義博会長が挨拶に立った。

「本連合会は、昭和43（1968）年に東京・名古屋・大阪の3同業組合が結集して誕生した。創業百年をこえる伝統を持つ老舗企業も数社ある。40年の歴史のなかで、社会の激しい構造変化に対応してきたが、これからも新しい方向性を皆さんとともに探っていかなくてはならない。経営者の皆さんにはディスプレイ業の生産性向上を目指していただきたい。若い皆さんには青年部など、さまざまな活動を担っていただきたい。このたび、40周年記念事業委員会によって、構成員章のプレートと徽章が作成され、各構成員に配布された。来るべき50周年に向けて、構成員相互のコミュニケーションをますます活発化していきたい」

続いて、来賓紹介。経済産業副大臣・新藤義孝衆議院議員、本連合会の所管官庁である経済産業省商務情報政策局参事官・志村務、社団法人商業施設技術者・団体連合会会長・野村武彦の3氏が紹介された。（順不同・敬称略）

来賓を代表して新藤経済産業副大臣が挨拶を述べた。

「今回初めて出席させていただいた。6千億円の市場規模を持つとされているディスプレイ業界において、連合会は業界の発展に寄与された。ディスプレイ産業賞において、経済産業大臣賞・局長賞を設けていることをみても、本省の期待の大きさを表しているといえる。地域経済と密着した活動を通して、新しい街づくりに貢献していただくとともに、お互い助け合って技術を向上させ、成長していっていただきたい」

次に、永年在籍役員表彰が行われ、以下の方々が表彰された。15年以上、岡田幸光・倉田信一・乃村義博・山口勝令・北山廣司・加藤賢次・川口俊文。10年以上、渕田俊郎・中村順一・浜田晋・尾澤輝行・中田外義・鶴見祐輔。（順不同・敬称略）

最後に、全国大会に先んじて行われた第40回通常総会において承認された「平成20年度事業計画基本方針」が浜田晋副会長によって発表された。

以上で式典の一部が終了し、会場のカーテンが開かれると、目の前にはレインボーブリッジを正面にして東京湾を一望するパノラマが広がった。海上には交流会場となる大型客船「レストランシップ ヴァンテアン」も停泊している。

乃村義博会長

新藤経済産業副大臣

永年在籍役員表彰

清水卓治理事長

東京

記念シンポジウム

しばしの休憩の後、本大会のメイン企画である記念シンポジウム「いま、ディスプレイの世紀へ～40年の軌跡、そしてこれから～」が開催された。

コーディネーターは空間メディアプロデューサー・平野暁臣、氏は来るべき上海万博の日本館展示プロデューサーでもある。パネラーは、グラフィックデザイナー・佐藤卓、宣伝会議編集室長・田中里沙、大阪府立大学特別教授／イベント学会副会長・橋爪紳也、当連合会会長・乃村義博の各氏である（順不同・敬称略）。

まず平野氏が基調講演を行った。

「今、ＩＴをはじめとして情報環境が激変し、各種メディアが割拠する状況が生まれている。私は、そのなかで空間展示というメディアが中核を担うであろうと思っている。21世紀はまさにディスプレイの世紀なのである。ディスプレイ業界は岐路に立っており、従来の方法を守るか、新しい構造を目指して格闘するかが問われている。その意味では、展示の概念を一挙に塗り替え業界を近代化した、約40年前の大阪万博を前にした状況と同じである。（大阪万博の模様を収録した10分程度のビデオ映像を見て）『メディアとしての展示』の認知と『構造レベルの自己変革』に向けて突き進んでいかなくてはならない」

シンポジウムは、「現在のディスプレイ環境をどう見るか」「次のステージへの扉を開くには」「新しい発想を得るヒントは？」などのテーマをめぐって、基調講演を含め1時間半にわたって行われた。各パネラーからは示唆に富んだ意見が続出した。ここに幾つかを採録してみた。

「コミュニケーション・メディアの環境が変化するなかで、『展示』は感性に訴えることが大きいクリエイティブなメディアとなってきている」「大阪万博を体験した40～50代前半の人たちが今や業界の中心となっている。万博のような非日常が今や日常となり、都市そのものが展示会場となっている。新しい都市、そしてディスプレイの新しい概念が求められている」「地方都市を訪ねる時、駅・空港の印象をしっかりと捉えるようにしている。都市の情報力はディスプレイ力で決まる」「『エキナカ』の展示を例にとるまでもなく、マス広告から商品の特性をより訴えることができる『展示』メディアへの流れは確実に存在する」「『体験』『空間』に対する認知・期待は高まっている。グラフィックデザイナーもまったく新しい空間概念を提案してきている」「体験すること、カラダのセンサーで感じ取ることは大切だ。空間を基本にしてコミュニケーションを考えていきたい」「展示が行われる場がどのようなポテンシャルを持っているかを見つけなければならない。余計なものを付け加えずにその場に眠っているポテンシャルを表現したい」「展示会場もオープン時とクローズ時では違った顔をしている。興味・関心を持った会場には、始めと終わり、少なくとも2回訪れるようにしている」「つくっておしまい、ということではなく、自分が手がけた店舗ではどのようなものがどう売れているかまで見てほしい」「これまでつちかってきた技術を積み重ねて新しい可能性を手にすることができる。たとえば、フランスの噴水ショーのイベント会社は噴水のノズルの技術をもっており、その技術を駆使して当代一流のショーを演出している」「大阪万博に感動したわれわれの世代が子供たちに同じような感動を伝えていきたい」……。

平野暁臣氏

橋爪紳也氏

田中里沙氏

佐藤　卓氏

数々の貴重な意見を全て誌面に再現するには、数頁を費やすほどの内容豊かなシンポジウムであった。咳払い一つ聞かれない会場では、参加者全員が熱心に耳を傾けていた。

シンポジウムの後、岡田幸光副会長が閉会のことばを述べた。

大会旗引き継ぎ

第41回全国大会は三重で!

交流会

交流会場となる「レストランシップ ヴァンテアン」の乗船ドックには深紅のカーペットが敷かれ、清水理事長をはじめとした東デ協の理事20数名がタキシード姿で出迎えた。４００名近い参加者は船の3つのデッキに分乗した。

式典とはうって変わった和やかな雰囲気のなか、清水理事長が主催者挨拶。

「皆さんに乗船していただき、本船は満席となりました。船長にうかがうと、船が満席になることは大変に目出度いことであるとのこと。下船するまで全員一緒。存分に楽しんでいただき、ぜひ有意義な交流会にしてほしい」

次いで浜田副会長が乾杯の音頭をとり、交流会スタートとなった。シンポジウムに参加された平野暁臣・橋爪紳也両氏も乗船され、くつろいで参加者と懇談された。「ヴァンテアン」は波静かな東京湾をクルーズ。その間、各デッキでは、和洋の食事とともに、黒人アーティストによる生演奏、マジックショー、ピアノ弾き語り、乃村工藝社有志によるバンド演奏が行われた。船は、ライトアップされたレインボーブリッジをくぐり抜け、宵闇迫る東京湾へ。うっとりするような夜景、羽田に着陸する旅客機の機影など、2時間半のクルージングを存分に楽しんでいただけたと思う。

さて、交流会も閉会に近づき、次回第41回全国大会開催地、三重県イベントディスプレイ協同組合への大会旗の引き継ぎが行われた。山本忠之三重デ協理事長より、「美しくに伊勢の地へ」皆さんぜひお越し下さいと、次年度開催ＰＲが行われた。

最後に角川渉東デ協副理事長より、閉会挨拶と一本締めが行われ、「お開き」となった。

翌日は、研修視察（浅草観音と仲見世見学、東京ミッドタウンツアーなど）とゴルフ大会に分かれた。参加者の皆さんはバラエティーに富んだ大会企画を満喫されたことと思う。

（東京ディスプレイ協同組合　田口徳久）

日デ連40周年記念シンポジウム・コーディネーター

平野暁臣氏に聞く

ここでは、シンポジウムに先立って、平野氏に対して東京ディスプレイ協同組合が行ったインタビューを掲載いたします。シンポジウムは、ほぼこの「予告編」のフローにそって行われ、その上にさらに発展した議論が展開されました。

（本インタビューは「DISPLAY TOKYO 2008　春号」に掲載されました）

Q1

シンポジウム「いま、ディスプレイの世紀へ〜40年の軌跡、そしてこれから〜」では、どのような展開になるとお考えでしょうか。「予告編」的に内容を少し教えて下さい。

Answer

ディスプレイ業界のスペシャリストである乃村さん以外の3人のパネラーは、あえて異分野で活躍する方々を選びました。外の世界からディスプレイがどう見えているのかを知りたかったし、少し離れたところから刺激を与えて欲しかったからです。いずれもそれぞれの分野で日本を代表するトップランナーであり、ディスプレイに対する造詣も深い。それぞれの立場・専門領域からの示唆に富む話が聞けると思います。

ディスプレイへの眼差しはそれぞれで違うはずですし、もちろんどんな話が飛び出すかはわかりません。ただ、どんな議論になるにせよ、彼らの話の中から「共通点と差異点」を見つけ出すことができるはずです。それこそが次の展開を我々一人ひとりが考えていく上での大きなヒントになるものだと思います。

Q2

シンポジウムでは個性豊な凄い方々がパネラーに来て頂けることになり、「シナリオのないパネルディスカッション」との事です。先生の期待などお話し頂けますか。

Answer

21世紀は「ディスプレイの世紀」になるとぼくは考えています。だから「ディスプレイのこれからを考える」ことをこのシンポジウムのテーマにしたのですが、その手掛かりとして、大阪万博に学ぶことからはじめたいと思っています。なぜなら、いま我々が置かれている状況が、ある意味で40年前ととてもよく似ているからです。大阪万博という一世一代の挑戦の舞台を与えられた先輩たちは、それを見事に乗り越え、展示というメディアを新たなステージへと引き上げました。そしていま、我々も同じように次への飛躍に向って新たな挑戦に取組むべき状況に置かれています。

つまり、この40周年という節目は、単なるアニバーサリーを超えて、とても重要な意味を持っているのです。偶然ではないこの節目の時代に相応しいシンポジウムにしたいと思っています。当日は、少しだけ万博当時の映像もお見せします。若い人にはとても新鮮に映るかもしれません。楽しみにしてください。

Q3

ディスプレイ業、ディスプレイ連合会・組合の役割を、客観的に先生はどのようにお考えですか。

Answer

先ほども言ったように21世紀は「ディスプレイの世紀」であり、ディスプレイに対する社会の期待はますます高まっていくと思います。ただし、忘れるべきでないのは、寝ているだけで向こうから果実が転がってくるわけではない、ということ。我々はいま、間違いなく岐路に立っているのです。

取り得る道は二つ。ひとつは今までの方法を身を固くして守っていく道、もう一つは環境の変化に合わせて自らを変えていく道です。もちろん我々が選ぶべきは後者ですが、当然ながらそれにはリスクが伴います。大阪万博のとき、先輩たちはこのリスクを引き受けて、自らを大きく変革し、ディスプレイを新しいステージへと導きました。

このような時代にあって、業界団体に求められるのは「守り」より「攻め」の姿勢だと思います。新たなチャレンジに挑もうとする仲間をサポートしたり、新しいスキルを身につけようとする若い人たちの背中を押したり、といったことですね。また、外の世界とのパイプを拡げる努力も大切です。ディスプレイの世界に新鮮な風を入れるためにも、外の世界の住人にディスプレイの意義・役割・面白さを伝えて興味を持ってもらい、彼らを受け入れる地ならしをする、ということもこれからは重要な戦略になると考えています。

暑中お見舞い申し上げます

東日本地区

株式会社昌文堂
取締役会長
櫻田英明
北海道

株式会社エム画房
代表取締役
村山　武
宮城

株式会社ライン工房
代表取締役
新國也守人
宮城

株式会社アーバン
代表取締役
倉田信一
茨城

株式会社スタジオ ピース
代表取締役
玉木正雄
茨城

株式会社オオミヤ
代表取締役
大宮許允
栃木

飯田電機工業株式会社
代表取締役社長
飯田美里
東京

株式会社上田工舎
代表取締役会長
三浦敏宏
代表取締役社長
上田大平
東京

株式会社エステー企画
代表取締役
安達　繁
東京

株式会社エス ビー センター
代表取締役社長
村川和敬
東京

株式会社オオウチ工芸
代表取締役
大内養一
宮城

有限会社ガンプロセス社
代表取締役
荒井道人
東京

株式会社工芸社
代表取締役社長
五島寿夫
東京

株式会社小林工芸社
代表取締役会長
小林　弘
代表取締役社長
小林英介
東京

株式会社サポート
代表取締役
井上裕之
東京

株式会社アドヴァンス企画
代表取締役
鈴木一弘
東京

株式会社サンセーコー
代表取締役会長
佐藤雪夫
代表取締役社長
田山重雄
東京

株式会社シミズオクト
代表取締役
清水卓治
東京

株式会社純光社
代表取締役
蓮沼建治
東京

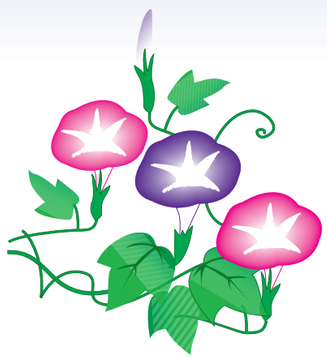
株式会社杉孝
代表取締役
杉山信夫
東京

株式会社カブキヤ
代表取締役
青木邦夫
東京

株式会社三恵社
代表取締役
池上佳之
東京

株式会社鈴木電機
代表取締役
鈴木倫之
東京

株式会社綜合デザイン
代表取締役社長
石山嘉一
東京



株式会社玉俊工業所
代表取締役
友齊信幸
東京

株式会社展示構成
代表取締役
吉村勝博
東京

株式会社日創工芸
代表取締役社長
君野　弦
東京

株式会社博展
代表取締役社長
田口徳久
東京

株式会社ブルー
代表取締役
染谷重雄
東京

中央宣伝企画株式会社
代表取締役社長
船橋　喬
代表取締役専務
斉藤健一
東京

株式会社トーガシ
代表取締役
吉田守克
東京

株式会社日展
代表取締役社長
西　義信
東京

株式会社花とみどり社
代表取締役会長
深井米三
代表取締役社長
深井亮太
東京

株式会社ボックス・ワン
代表取締役
井上　香
東京

株式会社ディー・ファクトリー
代表取締役
小倉稔央
東京

株式会社中村住装
代表取締役社長
田中延育
東京

株式会社ニップコーポレーション
代表取締役社長
奥下雄康
東京

株式会社ヒラッカ・リース
代表取締役社長
平塚克寿郎
東京

株式会社マッシュ
代表取締役社長
渋谷紀之
東京

TSP太陽株式会社
代表取締役社長
河野康之
東京

中村展設株式会社
取締役会長
中村良司
取締役社長
中村順一
東京

株式会社乃村工藝社
代表取締役会長
乃村義博
代表取締役社長
渡辺　勝
東京

株式会社ファースト
代表取締役社長
岡　勝利
東京

みはし株式会社
宣伝部長
吉田和正
顧問
平田純一
東京

株式会社テン
代表取締役
青木秀策
東京

西尾レントオール株式会社
代表取締役
西尾公志
東京

株式会社白水社
代表取締役会長
山口勝令
代表取締役社長
遠藤芳明
東京

株式会社フジヤ
代表取締役
永田智之
東京

株式会社ムラヤマ
代表取締役社長
日下部　肇
東京

株式会社メディア・テクニカル
代表取締役社長
大津　豊
東京

株式会社モリタ装芸
代表取締役
森田順一
新潟

中 日本地区

ヨシダ宣伝株式会社
代表取締役
吉田隆平
石川

株式会社カトウスタヂオ
代表取締役
加藤賢次
愛知名古屋

株式会社ニホンディスプレイ
代表取締役
早野道成
愛知名古屋

株式会社オカダアート
会長
岡田幸光
社長
岡田紀和
富山

株式会社大和工芸
代表取締役社長
市橋雅之
愛知名古屋

フジヤ広告株式会社
代表取締役
橋川寛治
岐阜

有限会社フタバ美装
代表取締役
加藤典朗
愛知名古屋

八千代広芸株式会社
代表取締役会長
滝北秀雄
代表取締役社長
鎌田義英
東京

株式会社冨士産工
代表取締役社長
寺本龍昭
富山

アートユニオン株式会社
代表取締役
太田晴久
静岡

ヤマコー株式会社
取締役会長
山本忠之
三重

株式会社中央工芸
代表取締役社長
鶴見祐輔
取締役静岡支社長
橋本有公
愛知名古屋

株式会社ユニックス
代表取締役
永井一利
東京

株式会社広伸社
代表取締役社長
横田滝久
神奈川横浜

株式会社シ・ピ・エル
代表取締役社長
小作拓史
石川

株式会社東名装飾
代表取締役社長
杉山耐子
愛知名古屋

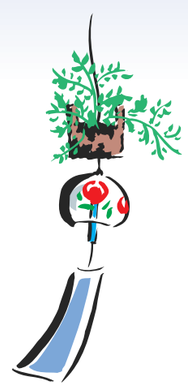
有限会社アカサカ スタジオ
代表取締役
榎本久樹
静岡

株式会社カンコー
代表取締役
藍沢憲雄
新潟

ナカダ株式会社
代表取締役
中田正人
石川

中日本装備株式会社
代表取締役
千田　穣
愛知名古屋

株式会社オフィス21
代表取締役
川口俊文
専務取締役
加藤治雄
愛知名古屋



西 日本地区

株式会社アーバン工房
代表取締役
原　清和
大阪

株式会社ニチナン
代表取締役
杉本行隆
大阪

株式会社モダンパラダイス
代表取締役
谷田あい子
大阪

株式会社ザ・ヒロコー
代表取締役
小松武彦
広島

株式会社丹創社
代表取締役
中田恭之
福岡

第一芸株式会社
代表取締役
綿谷賢治
大阪

株式会社日邦
代表取締役
居場嘉彦
大阪

株式会社さくら工芸社
代表取締役
小田則男
兵庫

三共ディスプレイ株式会社
代表取締役
孝野孝男
広島

株式会社ハダ工芸社
代表取締役
波田英次
福岡

株式会社キヌガワ京都
代表取締役
中山雅清
京都

株式会社ディー・ファクトリー
代表取締役
小倉稔央
大阪

株式会社乃村工藝社
代表取締役会長
乃村義博
代表取締役社長
渡辺　勝
大阪

株式会社テック
代表取締役
永田邦雄
兵庫

大昌工芸株式会社
代表取締役社長
古田裕三
広島

株式会社ツカサ創研
代表取締役
渕田俊郎
熊本

ジーク株式会社
取締役社長
湯淺圭一
京都

株式会社フジヤ
代表取締役
永田智之
京都

TSP太陽株式会社
代表取締役社長
河野康之
大阪

株式会社ハートス
代表取締役
前田順一
大阪

株式会社入江工芸社
代表取締役
入江良之
岡山

株式会社中村工社
代表取締役
中村仁士
広島

株式会社美也古商会
代表取締役社長
平田克則
京都

日本サイン株式会社
代表取締役
北山廣司
大阪

株式会社ファースト
代表取締役社長
岡　勝利
大阪

株式会社共美工芸
代表取締役
内田義昭
広島

株式会社松山建装社
代表取締役
盛重二郎
愛媛

平成20年度
ディスプレイ産業賞
地区審査会 報告

年賞・年鑑委員会 委員長
角　川　　渉

昨年に引き続いて今年もディスプレイ産業賞地区審査会を東日本、中日本、西日本地区において行いました。この賞の審査基準はあくまでディスプレイ産業の振興に寄与した作品で、デザイン、製作施工、技術及び伝承面においてもまた、地域振興に役立つ作品を選考いたしました。残念ながら4月21日に行った東日本地区においては昨年より応募作品の数がやや少なかったのが気がかりですが、作品のグレードは上がったように思われました。23日は名古屋において中日本地区、30日は西日本地区の審査会を行いました。両地区とも私が立ち会ったのは初めてでしたが、作品応募数も多く、グレードも高く選考作業も長時間を要しました。審査員の皆様のお陰で総数28作品の入選が決まりました。ご存じのようにこのディスプレイ業という分野は範囲が非常に広く選考方法が難しいことがあります。今後は商業施設部門、展示イベント部門、映像・サイン・pop販促ディスプレイ部門等などの分野別に分けるべきかと思います。審査の過程では各自のコメントでそれぞれのデザイン、製作意図がわかりたいへん参考になりました。なお、今後は各企業の新人の作品の応募を促し入賞作品数も増やし、機関誌NDに掲載し、活躍と発表の場を設けて若手の意欲を引き出すのも我々の責務かとも思います。それによってNDを読む人数も、我々業界のバイブルでもある『年鑑日本の空間デザイン』の購買も多くなり、業界の活性化にも繋がることだと思います。

選考審査にあたりました倉田、岡田、浜田各副会長、各地区正副委員長、審査員の皆様の貴重な時間と労力と経費のご負担のご協力をいただきましたこと、お礼申しあげます。

東日本地区審査会

中日本地区審査会

西日本地区審査会

株式会社 博展（東デ協）、大証（ヘラクレス）に上場!

今年の2月29日に大阪証券取引所「ヘラクレス」に上場致しました㈱博展の田口徳久社長を直撃し、上場に至った経緯や苦労話などをお聞きしました。

上場おめでとうございます。株式上場までは大変なご苦労があったと思いますが、まずは、何故上場したのか教えていただけますか?

田口:私共のディスプレイ業界を見ていて、表舞台に名前が出てくることが少ないという印象を強く持っていました。待遇面も含め、正当な評価を受けられる様に変革しなければ、業界においても継続的発展は難しいと感じ、上場を考える様になりました。そして、2003年に、社内に上場勉強会というプロジェクトを立ち上げ、活動を開始しました。

その時の社内の反応はいかがでしたか?

田口:やはり、上場審査のために、社内の体制や仕組みを変え、それに伴い規則や書類等も整備しなくてはならず、その煩雑さからか、疑問を唱える声が多かったですね。

そういった声に対してどの様に対応され、社内のコンセンサスを形成されたのですか?

田口:実は以前から月に2～3回の割合で、社員7～8人と『田口を囲む会』という社内の懇談会を開いていまして、その席で社員一人ひとりとこの件に関して対話し、理解してもらう努力をしました。特に、上場後、社員に直接関わるようなメリットを分かりやすく伝えるには効果的でした。

それにしても、御社のここ数年の業績の成長があっての上場であると思いますが、成長の要因を教えていただけますか?

田口:それは社員の力に因るところが大きいと思います。実は私共は10年前から定期採用を継続して行い、苦労しながらも採用と教育に力を入れてきました。10年前、弊社には営業マンは私しかいませんでした。業績拡大のためには営業力強化が急務であり、若い人材の早期戦力化が重点課題だと考えたのです。

ディスプレイ業界は一般には認知度も低く、採用にはご苦労されたのではないでしょうか?

田口:そうですね。当然の話ですが、費用と時間をかけないと良い人材は集まりません。そして、ぶつ切りでなく継続的に、少しでも多く良い人材を採用すべきです。同期社員や同年代の同僚の存在は、社員の孤立を防ぎ、さらにはライバル意識を目覚めさせるなど、多くの相乗効果を生みます。また、会社説明会などで若手社員に学生達と懇談をさせていますが、これは、弊社のリアルな情報を学生に伝えられる一方、若手社員にとっては、社会や企業について話をすることによって、自然と社会人、企業人としての自覚や認識が深まるといった、双方に良い効果が表われます。もちろん、私自身も学生との面接には多大な時間をかけています。

若手社員の指導について特に気をつけている事はありますか?

田口:会社というものは社員がおもしろいと思ったこと、やりたいことを出来るステージだと思っています。ですから、そういった思いを持った若い人を評価し、先ずは、やらせる様にしています。そうすることで、社員のロイヤリティーも向上し、組織はより強くなることが出来ました。

積極的な人材採用により社員数も急増していますが、新旧の社員、社風等の融合に御苦労はありませんでしたか?

田口:社員の意識は常にクライアントへ向かっていくべきだと思います。クライアントの声をダイレクトにお聞きする営業担当者と同じように、スタジオの制作担当者も、デザイナーも、クライアントの要望を理解し、同じベクトルで仕事に取り組まなくてはなりません。これを新入社員に最初に教え込み共通理解とすることで、新旧社員は一丸となって仕事に取り組むことができるようになりました。

田口社長の今後の抱負をお聞かせ下さい。

より優秀な人材がディスプレイ業界に興味を持ってくれるように、業界の知名度を上げていきたいと希望しています。また、業界全体で社員の働きやすい環境づくりに取り組んだり、業界の魅力をどんどん社会に発信していける仕組み作りに励みたいです。

最後に『ND』の読者の皆様にメッセージをお願いします。

田口:今後も、様々な取り組みを積極的に行い、ディスプレイ業界を一緒に盛り上げていければ、と思います。どうぞよろしくお願いいたします。

大変貴重なお話、ありがとうございました。

聞き手･･･広報委員:森川　圭　〈TSP太陽㈱〉

栃木 真の“やすらぎ”と“豊かさ”

華厳ノ滝

栃木県はジャズとカクテル、そして餃子の街として名高い宇都宮を中心とした丸に近い形をした県です。首都圏から一時間ほどの位置にありながら、雄大な自然にも恵まれ街と自然とのバランスがよく、また自然災害も少ないのが本県の特徴であり自慢です。これらの風土が県民に“やすらぎ”と“豊かさ”を与えてくれています。

しかし全国的にはそれらの認知度が低く、先日もNHKの調査において『どこにあるか解らない県』の第二位になってしまいました。この不名誉な結果は県民一人一人がもっと郷土について再考し、より声を上げて栃木県をPRしていかなければと反省したところです。

そんな時にこの誌面においてPRのチャンスを頂きましたので早速ですがお国自慢をさせていただきます。

一般的に栃木県というと世界遺産である「日光の社寺（日光東照宮・日光山輪王寺・二荒山神社）」や日本最古の総合大学である「足利学校」などの史跡。そして濱田庄司により有名になり、今なお多くの陶芸家により支えられて繁栄する「益子焼文化」が思い起こされます。

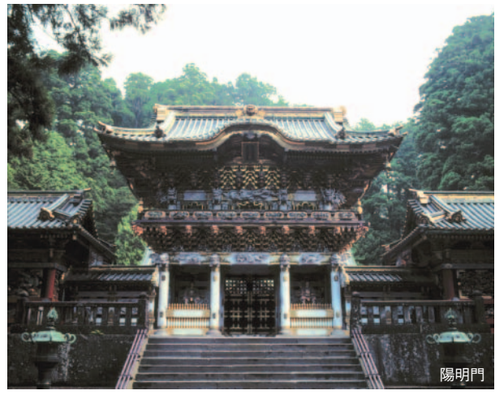
これらの他にも意外と知られていないのが“美しい自然”です。まずは御用邸のある「那須高原」。カラッとした空気の中、酪農の盛んな那須高原はサイロのある牧場が点在し、ヨーロッパ風の異国情緒な風景が味わえます。その他もみじの美しい「塩原温泉」、そして昨年ラムサール条約に登録された「奥日光の湿原」。そこでは“貴婦人”と呼ばれる白樺の木が凛として立つ幻想的な風景を見る事が出来ます。この様にそれぞれ違った個性のある自然がたくさんあります。なお、今年から昭和天皇がこよなく愛された広大な那須御用邸の一部が一般に開放されることとなりました。是非、足を運んでみてください。高原を吹く風が真の“やすらぎ”を与えてくれると思います。

戦場ヶ原

一方で日常生活に目を向けると、農業県でもある本県は食の安全が騒がれる中、「いちご」や「とちぎ和牛」や「湯波」などの特産品は勿論、ちょっと郊外に足を伸ばせば生産者の顔の見える「直売所」や「青空市」などが多数あり、新鮮で安価な農産物を手に入れる事ができます。毎日、地産地消で「スローフード」な生活を実践することが出来ます。

こんな、やすらぎの里・栃木へ、通り過ぎるだけではなく、少し足を止めて実感してみてください。

栃木県ディスプレイ協同組合
理事長　大宮許允


陽明門

わが組合・協会 じまん お国

松山市は、豊かな自然環境とともに、道後温泉や松山城などの観光地や、正岡子規をはじめとする俳句や夏目漱石の『坊っちゃん』など、数多くの文化的、歴史的資源に恵まれています。

特に道後温泉は、2007年に出版されたフランスの旅行ガイドにおいて、ぜひ訪れるべき観光地として、四国で唯一「三つ星」を得たことでも話題になりました。

その本館前は、歩行者専用道路として改修され、観光客にとって、安全で歩きやすい環境を整えるとともに、様々なイベント会場ともなっています。

道後温泉

また、平成の大改修を終えた松山城は、姫路城と並ぶ日本三大連立式平山城であり、また、現存12天守の一つとして、日本で最後の完全な城郭建築の天守を有する市民のシンボルであり、毎年、多数の観光客の訪れる人気の観光地です。

周辺のロープウェー街も整備されるとともに、安藤忠雄氏の設計により、坂の上の雲ミュージアムも近くに建設されました。

開館1周年を迎える坂の上の雲ミュージアムは、司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』の主人公である正岡子規と、秋山好古・真之兄弟に関する資料や、明治という時代に係わる展示に加え、まちづくりに関係する様々な活動を行い、訪れた人が時の流れについて考え、感じる場となっています。

坂の上の雲ミュージアム

さらに、このミュージアムは、松山のまち全体を屋根のない博物館とする『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想の中核施設として市内各地に点在する、たくさんの地域資源や情報を収集し、結びつけて発信する場ともなっています。

『坂の上の雲』は、平成21年秋には、NHKのスペシャルドラマとして放映が決まっており、現在、着々と撮影も進んでいます。

ドラマが放映されると、これまで以上に松山への注目度が上がると期待されています。

ぜひ、この機会に松山にご訪問いただき、道後温泉に浸かりながら、ゆったりと歴史や文化に浸っていただければと思います。

おいでんかな　松山へ

愛媛ディスプレイ協会
理事長　盛重　二郎

松山城

小説『坂の上の雲』のまち松山

NEW 新規加入構成員の紹介 NEW

株式会社 ジールアソシエイツ（東京）

『コ ミュニケーションデザイン』、これが我々の考える空間プロデュースにおけるコンセプトです。それは、「ものづくり」だけでは完結しません。素材から始まり、光、音、匂い、そして何よりも、そこに立つ人の感情までをコーディネートする事、それが我々の手法です。

それは単に設計施工・運営・進行・演出等々を自社で遂行する、という考えではなく、空間という「メディア」を「媒体」として扱うそのやり方に神髄があります。

ジールアソシエイツは固定概念というものが大嫌いな3人によって2004年にスタートしました。創業以来、多くの皆様にお力添えをいただき成長する事ができ、この東デ協に参加できる事も一重に皆様のお力添えがあったからこそと心から感じています。

情熱を持って仕事に取り組み「道」が開け、必然と「仲間」が増えて参りました。“ZEAL, Unlimited” ～我々の熱情に限界なし～ 弊社のコーポレートコピーであるこの言葉を胸に、平均年齢28歳という若い力をディスプレイ業界の為に活用していきたいと真に願います。

ディスプレイ業界発展の為に今後とも皆様のご指導を頂き、活躍したいと考えております。どうぞ皆様よろしくお願い申しあげます。

中央区日本橋人形町3-4-14
株式会社 ジールアソシエイツ
代表取締役 永門大輔

有限会社 ウェルカム（東京）

2004 年12月、二人のガイコクジンであるローランド・ウェルス（ドイツ）とヤン・ニコラスカムケ（スイス）が長年親しんでいる東京で有限会社ウェルカムを設立しました。30年以上にわたり20カ国以上で展示会業界に携わってきました。おかげさまで今や世界中を飛び回る毎日で、家がどこなのか忘れそうになるほどです。

国際イベントは、異なる文化背景を持つさまざまな人たちが集い、アイディアを共有してつながりを作る場所です。来場者は、出展社の言葉を理解できますか？　出展社のデザインが正しい意味を持って伝わりますか？　行き先はアメリカ、ヨーロッパ、アジアですか？

海外での出展をお考えなら文化面での環境を理解することが大切です。ウェルカムならその国特有のテクニック、規制、材料、人材を熟知しています。

皆様にとってその体験が有意義なものになるように、私たちはクライアントの自己表現と演出をお手伝いします。

「日本と海外の橋渡し役」としてご協力できればと思っております。

今後ともよろしくお願い致します。

目黒区祐天寺2-14-7ツインタウン祐天寺ビル3F
有限会社 ウェルカム
代表取締役 ローランド・ウェルス

株式会社 中村住装（東京）

株 式会社　中村住装には昭和45年創業以来一貫して守ってきたことがあります。

それは“顧客第一主義”です。お客様あっての当社という方針を貫き、お客様のご要望に確実に応え、納めてきたからこそ今日の中村住装があると実感しております。

当社の仕事は、展示会・イベント会場の床仕上げ工事を主とし、商業施設・住宅・内装仕上げ工事、カーテン・ブラインドなどのインテリア関係を取り扱っております。

受注する仕事は大規模なものから小規模なものまでさまざまです。しかし、私達にとってはどの仕事も同じように大切な現場です。お客様の思いをしっかりと受け止め、お客様の立場に立ちカタチにする。そこから得たお客様の安心が信用となり、次の仕事への信頼へ、とつながっています。地道な努力と挑戦の積み重ねを大切にしている会社と自負しております。また、仕事を行なっていく為には避けて通れない課題が、環境問題です。当社では早い時期からゴミを出さない工夫を実践し、廃棄資材の循環型リサイクルに積極的に取り組んでおります。当社のポリシーを実行してくれる社員をはじめ、関係者皆様の生活環境の向上を願って日々努力し、皆様に支えられながら“顧客第一主義“のもと今後も邁進していきます。東京本社、大阪営業所共にどうぞ宜しくお願い致します。

台東区三ノ輪2-14-12
株式会社 中村住装
代表取締役社長 田中延育

株式会社 テイクアート（東京）

創 造を掻き立てる　希望を奮い立たせる
お客様のしてみたい！　やってみたい！
をその気にさせるドリームサポーター
それが弊社の創るカタチです。

1995年3月創業以来、常にモノ作りの立場から“博覧会・展示会・店舗施工・デパート催事”等の仕事に携わって参りました。

創立当初よりデザイン・設計には力を入れて参りましたが何よりも作る・創るが当社のモットーであり常に工場と隣接した環境で質のよい安価な製品及び空間演出を提供してきたと自負しております。

現在はデザイン・設計・施工はもとより運営・演出等にも力をいれた総合プロデュースからセールスプロモーション活動の企画等、お客様の要望ある限り様々な活動をしております。特に近年は外資系企業よりデザインにご好評頂き日本はもとより海外でのプロモーション活動など良い環境でのオファーが続いております。先進国日本とはいえ現在の広報費は大変厳しい状況下にあります。そこに至り諸外国等は様々な手だてを持ちアイデンティティーのブランド化に尽力しており、その姿勢は大変勉強になります。その経験を真摯に受け止め日本の企業へ提供できれば先にある空間へ到達する橋渡しができるのではと考えております。

未熟な企業ではありますが業界の発展、ならびにカタチある夢の未来へ向け日々精進いたす所存でございますので皆様のご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

江東区三好 2-6-10
株式会社 テイクアート
代表取締役社長 鈴木　武

NEW 新規加入構成員の紹介 NEW

株式会社 フォーバックス（宮城）

弊 社は1997年に設立スタートした歴史が浅い会社です。設立時はステージ資材リース/施工、テレビ大道具のデザイン/製作/施工がメインでした。得意なジャンルでそれなりの生活が出来れば…。考えられない発想での会社の立上げで、その発想の軽さはサッカー好きが4人集合というところからサッカー用語に由来する「フォーバック」の語呂合わせでつけられたものです。

しかし、業務を遂行する中でお客様からの強い要望やご指摘を受け、企業人としての野望を持たせていただきました。慣れないジャンルに日々勉強と修業を繰返し、現在ではその営業品目も展示会装飾/サイン製作/ショップリフォームとフィールドの幅を広げております。

また、日々変化する市場に対応すべく2007年9月に株式へと商号変更。自社工場/倉庫を設立、デザインルームやサイン部門/レンタル品の充実を計りお客様のご要望に100%応えられる体制が完成しました。

「お客様の想像をカタチある創造に」様々なフィールドでこれまで培った多岐に渡るデザイン、製作/施工の中で構築されたアイデア/スキルを駆使し、弊社が送り出す創造にプラスアルファの付加価値をつけて参ります。まだまだ若輩者ではありますが、よろしくお願い申し上げます。

仙台市宮城野区日の出町1-6-9
株式会社 フォーバックス
代表取締役社長 橋本徳郎

有限会社 美術工芸 大光（宮城）

当 社は1977年に設立し、2005年に現在の場所に移転、今年で創業32年を迎えました。

創業から屋外広告・店舗内外装・企画・設計・施工が中心ですが、近年では広告媒体・イベントにも力を入れております。

特に仙台七夕祭りでは、企画・デザイン・製作・竹上げ・撤去まで全てを行い、七夕飾りには欠かせない曲輪の製作も行なっております。

会社理念に「地域密着」「お客様の満足」を掲げており、お客様とのお付き合いのなかでプロとしてどれだけ良いご提案が出来、満足して頂けるかを大切にしております。

今後も「地域密着」「お客様の満足」を第一に、地域活性化の一役を担えるような的確で有意義な提案を行い、きめ細かなサービスの提供を全社一丸となって、一層の努力を重ねていく所存でございます。

この度、同協会員様からのお勧めで仲間入りさせて頂きました事に誠に感謝し、スタッフ一同、微力ながら尽力いたしますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

仙台市泉区市名坂字原田81
有限会社 美術工芸 大光
代表取締役 千葉政彦

有限会社 小島スチール工芸（栃木）

当 社は1973年に栃木県宇都宮市に『小島鉄工所』として創業し、1992年に社名を『有限会社小島スチール工芸』と改め設立しました。

弊社は、主に鉄、ステンレス、アルミ、銅、シンチュウの金属加工を行っております。中でも各種曲げ金物や手摺、什器、サッシ、階段などの建築金物、装飾金物の製作を得意としており、お客様のニーズにあった製品の製作を行っております。

時代と共にお客様の求めるニーズは日々多様化し、情報社会の中、ディスプレイ業界にも様々な商材が市場に溢れております。その中で更なる進歩を生み出すためには、お客様からの信頼に心から感謝し、確かな技術を通して皆様のお役に立つことが最善の方法であると強く確信しております。今後とも一層の努力をしていく所存でありますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

≪主要設備≫

- ベンダー（200t,4300mm）
- シャーリング（6mm,4m）
- 32t単動式油圧プレス
- 油圧パンチャー
- アルゴン溶接機
- 半自動溶接機
- エンジン溶接機
- エアープラズマ切断機
- スタット溶接機
- コンターマシン（1200mm）
- バンドソー（400mm）
- ロール加工機
- 3本ロール
- コーナーシャー
- ボール盤
- タッピングマシン
- コンプレッサー
- 天井クレーン（揚程8m,横行10m,走行22m,2.9t）

宇都宮市野沢町96-11
有限会社 小島スチール工芸
代表取締役 小島安夫

株式会社 ヘルム喜早（宮城）

「先 手必勝」この言葉をスローガンに1964年の創業以来、43年余り営業して参りました。

常にお客様の立場に立ち“何を求めているのか”“どんなものが欲しいのか”を考え提案しております。

サイン業界への本格参入は、2004年。今から4年ほど前になります。

主に出力サービスをメインとし、塩ビシートやターポリンに出力から加工まで幅広く行っております。

現在、品質に加えスピードも要求される時代になりました。当社でも、常に時代のニーズに合うように工夫しております。

今までターポリンは出力が出来ても、加工は外注というスタイルがほとんどでした。

当社では、出力から加工まで一貫生産の体制をとる事により“スピーディー”に、そして“クオリティー性の高い商品”をご提供しております。

時代は常に動いています。これからも他社には無い“独自のカラー”“自分のスタイル”を確立して行き、皆様と共に成長出来ればと思います。

今後ともどうぞ宜しくお願い致します。
（HP：http://www.kisoh.com）

仙台市若林区鶴代町5-58
株式会社 ヘルム喜早
代表取締役 喜早貴大

広報委員会
開催　4月10日
会場　ディスプレイ連合会　5階会議室
出席　田口（委員長）、荒川・金澤・桑田・森川・関根（委員）、田中（専務理事）、清水・竹内（事務局）、恩川（日本印刷）
議題
①5・6月号の進捗状況報告　②7・8月号の編集企画について　③HPトップページのリニューアルについて　④ディスプレイ便利帳について　⑤その他

ディスプレイ産業賞2008 東日本地区審査会
開催　4月21日
会場　ディスプレイ連合会　5階会議室

会計監査
開催　4月22日
会場　ディスプレイ連合会　5階会議室
出席　尾澤・北山（監事）、田中（専務理事）、渕田（総務・財務委員長）、川口（総務・財務副委員長）、清水（事務局）
議題
①会計監査　②その他

ディスプレイ産業賞2008 中日本地区審査会
開催　4月23日
会場　ガーデンビル　4階会議室

ディスプレイ産業賞2008 西日本地区審査会
開催　4月30日
会場　（株）つむら工芸

広報委員会（専門部会）
開催　5月2日
会場　ディスプレイ連合会　5階会議室
出席　田口（委員長）、荒川・森川（委員）、田中（専務理事）、清水・竹内（事務局）
議題
①創立40周年記念号について　②その他

第40回通常総会
開催　5月22日
会場　東京「ホテルインターコンチネンタル　東京ベイ」
議題
①平成19年度事業報告並びに収支決算に関する件　②平成20年度事業計画並びに収支予算に関する件　③平成20年度の入会金及び会費額並びにその徴収方法

「職長・安全衛生責任者教育」講習会
開催　5月30日～31日
会場　ウェルサンピア仙台（宮城）
講師　藤原　茂夫
受講　28名

第4回 日本イベント大賞 作品募集
わが国唯一の総合的イベント表彰制度。優れたイベントやその制作者を表彰します。

【応募部門】
●大　賞　企業イベント、社会貢献、地域振興、学生の各部門
●制作賞　企画・制作、演出、運営の各分野
（詳細は、（社）日本イベント産業振興協会 http://www.jace.or.jp/まで）

理事長就任　挨拶

富山県ディスプレイ業協同組合
理事長　寺本龍昭

富山県ディスプレイ業協同組合の理事長就任にあたりご挨拶申し上げます。

当組合は１９８３年に設立され、設立25周年を迎える事が出来ました。その間、先輩方の血の滲む努力により組織を保ち幾多の事業やイベントを消化しながら年々発展し、今、ここに至っています。

ご承知のように、豊かな商業環境に対する愛情と認識の高まりの時代に、商業空間、オフィス環境、パブリックスペース、住宅環境にサインやグラフィックスの新鮮で、高度に洗練されたデザインが要求されています。

我々は今後共、豊かで住み良い地域づくりに貢献したいと思っています。

近年都市景観に対する関心の高まりと快適で調和のとれた地域色のある街づくりのために、いかに演出するかが問われています。当組合の25周年事業として、市民の皆様から「富山商業空間デザインコンペ」を行い多数の作品が集まりました。

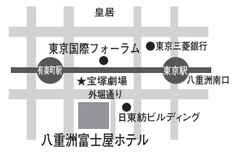
審査委員長に、富山大学芸術文化学部　武山良三教授・富山国際職芸学院　稲葉　実理事長を中心とし9名の方々に審査いただきました。優秀作品は、富山市民プラザ内での「富山デザインフェア２００７」に展示をいただき、県民の皆様に鑑賞していただきました。また、各市町村で移動展示会も行い好評をいただいたと聞いています。

我々富山県ディスプレイ業協同組合一同は、誠に意義深い25周年を契機に豊かで住み良い地域づくりの推進に一役努力するものであります。

今後共どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ビジネスの成功は、ホテル選びから始まっている。
東京駅から歩いて5分。心温まるおもてなしでお迎えする
サービスと施設面も万全。刻一刻のビジネスを快適にこなす、
アクティブな行動拠点としてご利用ください。

国際興業グループ　富士屋ホテルチェーン
八重洲富士屋ホテル
〒104-0028東京都中央区八重洲2-9-1　(03)3273-2111(代)
03-3273-0222(予約直通)



Tokyo&Osaka
The Fujiya Famille Club

The Fujiya Famille Clubは、八重洲富士屋ホテルと大阪富士屋ホテルでご利用いただける、新しいメンバーズ制度です。室料割引のほか、レジストレーションなしでのチェックインなどの特典をご用意しました。入会金や維持費は不要でございます。お気軽にお申込みください。

NEW　新規加入構成員の紹介　NEW

株式会社 シオザワ・デザイン建設（千葉）

弊社は、商業店舗（主にパチンコホール）の設計及び施工を主体としておりますが、立地条件が求められる業種なだけに、不動産を含めた情報の提供もさせていただいております。

最近では、大きな土地を求めているスーパーマーケットやドラッグストアー、家電販売店様からも不動産情報のお問合せがあります。

地域の景観を保つ為にも、撤退したパチンコホールの物件を、皆様に提供しているなかで、非常によい感触をいただいております。なかには、商業店舗の広い駐車場の一部を利用して、コンビニエンスストアーやコインランドリーなどの店舗を併設してオーナー様と近隣住民の皆様から喜ばれております。

また、駅前などのように駐車場が確保できないときは、人目を引く為のサインのデザインを提供しております。東関東から大阪まで営業網があり、デザイン・設計・施工・管理を一貫して行いますので、安心してお任せ下さい。

千葉市花見川区大日町1274　㈱展装内
株式会社 シオザワ・デザイン建設
代表取締役 塩沢寿治

株式会社 マックスサポート（東京）

当社は、1998年創業時から“お客様の縁の下の力持ち的存在として、最大限のサポートをお約束する”をモットーに、各種アウトソーシング・人材派遣・人材紹介とワンストップ型総合人材ビジネス会社として、お客様よりのご支援、ご指導の下、日々精進してまいりました。

その中でも、当組合のイベント・ディスプレイ業界とは創業当初より縁深く、お客様より現場を通じ様々な事柄を教えていただきました。

とりわけ、TV・舞台・イベント会場の大道具・美術・電飾分野、イベント会場における施工分野に関しては、当社より多数の技術者を輩出できる環境にまで至っています。

一方で、昨今の人材派遣業界におけるコンプライアンス問題では、新たな問題も色々生じているのも事実であります。

しかしながら、この逆風をチャンスととらえ、当社としては今まで以上の“コンプライアンス徹底”“技術力向上”“教育充実”を念頭に、お客様はもちろん、社内従業員、現場従業員までに、満足を提供できる企業運営（3者へのCS経営）を目指していきます。

この度、当連合会へ加入させていただく機会をいただき、誠にありがとうございます。

微力ではありますが、これを期に、更なる業界発展の一端を担える様、引き続き精進してまいります。

新宿区西新宿7-1-10守谷ビル6F
株式会社 マックスサポート
代表取締役 柳沢知秀

株式会社 アイド（兵庫）

創造は感動であるという観点から社長自らが絵画や揮毫に専念する。コンピュータの時代にあっても、基本は洗練された人間の目と卓越したデッサン力にあると信じて疑わない。社名AID（アイド）はAttention Interest Desireの広告三大原則より引用している。

元来、屋外広告業に所属しており、前兵庫県屋外広告美術協同組合理事長として6年間在職（現在、社団法人日広連・参与）尽力して来たが、ホテル催事看板やイベント関連の業務が増加してくるに当たり、ディスプレイ業界への参加が必須となり今回の新規加入をお願いするに到りました。

当社では技能研讃を基本に掲げつつ、コンピュータ関係の開発に力を注ぎ、大型インクジェット・CSマシーン等を導入、技能とITの両輪で稼動している。

現在、神戸市の工事入札にも力を入れております（H20.1、2、3月サイン工事連続落札実績）。一般のホテル催事看板の下請（30年にわたる廉価ノウハウの取得）、H20.4月ライオンズクラブ年次大会大型一文字看板全会場施工等、信頼と実績で奉仕するアイドをよろしくお願い申し上げます。

神戸市東灘区深江南3-8-23
株式会社 アイド
代表取締役社長 井上　誠

株式会社 スタジオ オー（大阪）

1980年に大阪で創業し、1984年に株式会社スタジオオーとして設立致しました。業務の多くは商業施設の設計・監理・施工をしております。特に実施設計・予算管理・現場推進には各発注元から高い評価を頂いております。

創業以来追求してきた「最強の制作集団」を目標として活躍してまいりました。2005年に東京営業所を開設し、より多くの良質なものづくりができる様にスタッフ一同目標を持って業務にあたっております。その思いの内にはものづくりに全力を尽くすという姿勢の中でローコスト化への取り組み、安全管理への高い意識を持って業務を推進する事により、設計から管理・施工まで無駄な費用を削減できると確信し実行しております。

新規加入構成員となり、また新たな出会い、ネットワークが生まれることと楽しみにしています。今後よろしくお願い致します。

大阪市住吉区帝塚山西1-1-25
株式会社 スタジオ オー
代表取締役 龍田　修

安くなって新発売!

エッジライト方式（屋内用） PAT.P

PG Light LED

ローコスト仕様

- 安い・明るい・長持ち・影ムラなし
- ランプ寿命、約50,000時間（1日8時間点灯で17年間）
- 前4辺のフレームが手で開けられる
- 高輝度白色LED使用
- 消費電力22W（B1サイズ）の省エネ設計
- ソフト（掲示物原稿）はインクジェット出力に依る
- バックライトフィルムが最適で安価

電源としてACアダプタ使用

R型

（自社製造完成品） 角型

参考希望上代				
A1サイズ	角型	￥119,000	（税込￥124,950）
	R型	￥118,000	（税込￥123,900）
B1サイズ	角型	￥150,000	（税込￥157,500）
※A3～B0サイズもあります。	R型	￥149,000	（税込￥156,450）

MDI関連品は日本を含む各国で特許・実用新案・意匠・商標に依って保護されており、
MDI社のライセンスの基に製造・販売されているものです。（2008年現在・世界16カ国）

www.shinei-japan.com　sales@shinei-japan.com

◎お問い合わせ・資料請求は FAXで

MEMBER MDI Marketing Displays International

Shin'Ei JAPAN MDI製品 製造総販売元 シンエイ株式会社

TEL 0120-773201
FAX 0120-213201
〒351-0014　埼玉県朝霞市膝折町3丁目7番31号

低価格、高品質、新商品への挑戦社！
工場直販　詳しくは当社ホームページをご覧下さい

Eメールによる受発注
全国どこでもネット入稿で
大変便利スピーディー！

社内一貫生産体制　充実設備で高精度のモノを　お見積歓迎

1 大型全自動オートスクリーン捺染機

営業品目
広告旗・懸垂幕・タペストリー・のれん・ゼッケン
エプロン・半天・繊維へのプリント・防炎加工など

2 インクジェット出力（染料・溶剤）

布プリントを主体として、その他のメディアも
お受け致します。
インクジェット高画質出力「染料物」ロット対応致します。

3 販促用品カタログ販売

約3000種、既製品旗、旗用ポール、その他多数。
ホームページでもご覧いただけます。

SERIART セリアート株式会社
〒175-0082　東京都板橋区高島平9-14-5
Tel.03-3935-4424
Fax.03-3935-3700
http://www.seriart.co.jp/
e-mail　info@seriart.co.jp

月刊ニッポンディスプレイへの広告は下記へ

AD／AGENCY
編集・広告・販促／企画・制作
株式会社東京宣広
〒162-0844 東京都新宿区市ヶ谷八幡町1新高ビル
TEL.03-3267-5531(代)　FAX.03-3267-5534
http://www.tokyosenko.co.jp

今回、㈱博展の田口社長のインタビューをしましたが、以前同社を広報委員会の打合せでお伺いした時の事を思い出しました。

事務所も新しくきれいでしたが、何よりも社員の皆さんが若くて明るい印象がありました。オフィスに入室した私に元気に『こんにちは!』と挨拶して下さり、活力ある会社だなぁと思いました。成長する会社ってそういうことなんでしょうね。

さて、会社の宣伝を少しさせて下さい。この度、弊社はISO27001（情報セキュリティマネジメントシステム）の認証を取得致しました。我々ディスプレイ、イベントの業界は空間メディアの作り手でありますから、クライアントやエージェンシーや主催者から新製品の情報、来賓等の情報を扱うケースが多いです。当社の業務内容も年々変化しており、単なる器作りからよりコンテンツ側の情報を扱う様になってきました。ですから、御得意先から安心してお仕事をお任せ頂く体制づくりをし、事故を未然に防ぐ事が社会的責任でもあると考え、取得活動を約1年前から始めました。

取得活動開始当初は、事務局担当も初めての事で手探り状態で、社内の理解を得るまで相当の労力を費やしました。また、マニュアルや各種規定の作成も試行錯誤の末、当社用のルールの文書化ができました。取得活動を進めるうちに社内の意識も徐々に変わり、目につく所では机のまわりを中心に、雑然としていたオフィスが随分整理されました。社員に聞いてみると、単にきれいにするのではなく、重要度によって区分整理するので、最初は大変だったけど、結果的には業務を効率的に進める環境が整った、という声もありました。ISO27001の認証取得している会社は国内ではまだ3000社程度だそうです。皆様の会社でも取得されてはいかがでしょうか?

最後になりましたが、本号の発行にあたり、多くの皆様の御協力を頂きました。心より感謝申し上げます。

広報委員
TSP太陽㈱　森川　圭

ND「原稿」募集

機関誌ND（Nippon Display　年6回発行）では、連合会からの一方通行な情報提供だけでなく、広く会員・構成員の皆さまからの原稿を募集しております。ディプレイに関するご意見、日々の出来事を綴ったエッセイなど、特にジャンルを問いません。氏名・所属を明記のうえ、事務局（jimukyoku@display.or.jp）までご連絡ください。

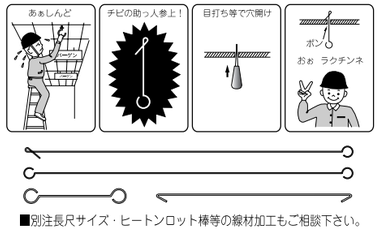
ヒートンにかわるチビの省力助っ人……

SEIKO ラクチンフック　簡便 石膏ボード用天井フック　CEILING POP HOOK PAT.P

全国の職人さんにご愛用いただいています。

- 各種POP広告物＜ポスター・パネル等＞の取り付け作業が高能率になります。
- 石膏ボードに穴を開けて、ポンと差し込むだけでOK！
- 取り外す場合はペンチで先端をカットし、天井裏へ突き上げて下さい。
- 高級ステンレススプリング材（SUS304）を使用していますので、耐久性にも優れています。

サンプル付カタログ差し上げます
http://www.e-seikosha.co.jp



■別注長尺サイズ・ヒートンロット棒等の線材加工もご相談下さい。

（社）POP広告協会正会員　ユニークなPOP & SPツールの専門メーカー　株式会社 制考社　〒657-0836 神戸市灘区城内通1丁目5－4　TEL(078)871-1413・0304 FAX(078)861-6244

ディスプレイ連合会賛助会員

AFLAC アメリカンファミリー生命	飯田電機工業株式会社	KSM 株式会社 警備・施工マネジメント
株式会社 シーズ・スリー	SIS 昭和情報機器株式会社 SHOWA INFORMATION SYSTEMS CO.,LTD.	株式会社 損害保険ジャパン 担当支社　北東京支店・池袋総合支社
DOW ダウ化工株式会社 ウッドラック営業部	TOHO 人へ 住まいへ 産業へ 東邦シートフレーム株式会社	株式会社 中川ケミカル
NIP ニップ コーポレーション	NPC 日本印刷株式会社	富士フイルムイメージテック株式会社
富士ゼロックス株式会社	株式会社 堀内カラー	株式会社山元
UNITY 株式会社ユニティー	六耀社	リリカラ

賛助会員募集中